

中国残留邦人等への理解を深める集い in 千葉

あなたの隣にいる『帰国者』のこと
知っていますか？

入場無料!
定員200名
申込裏面

中国残留邦人は、日中国交正常化(1972年)後、中高年となってようやく祖国の土を踏むことができました。このような方々とその家族は「(中国)帰国者」と呼ばれています。帰国者の皆さんの祖国での暮らしは、戦争の傷跡に苦しみ、言葉の壁や文化の違いに苦しむ日々でもありました。帰国者とその家族は、戦後71年目の今、何を考え、何を思うのか？負の歴史を繰り返さないためにも、世代を越えて続く帰国者の物語に耳を傾けてみませんか？

第1部 中国残留邦人の歴史と帰国者1世の今

■「中国残留邦人の歴史と現状」について紹介

■「中国残留孤児」(帰国者1世)としての体験談 鈴木征英さん(75歳)

・成田市在住。3歳で家族に連れられ満州へ、その後、「残留孤児」となり、1987年に日本へ帰国。

■二胡演奏 健康増進教室 ぼたんさくら二胡の会/中国帰国者タンポポの会

・中国の伝統楽器「二胡(にこ)」を千葉在住の帰国者1世の交流グループが演奏。



第2部 帰国者2、3世へと続く物語

■ドキュメンタリー『遼太郎のひまわり』上映

・2012年SBC(信越放送)制作。帰国者2世の親子を通して描かれた帰国者一家の物語。日中のはざままで自分の生き方を模索する1世、2世、3世。日中友好のあり方を考える。



2013年日本民間放送連盟賞
第50回ギャラシー賞
奨励賞受賞作品

■番組主人公 大橋春美さんのお話「帰国者2世としての思い」

・長野県在住。現在、中学校の英語教師。

日時:平成28年 **10月15日(土)** 13:00~16:00 (12:30開場)

会場:千葉市男女共同参画センター イベントホール

(千葉市中央区千葉寺町1208番地2 千葉市ハーモニープラザ内)

主催:中国帰国者支援・交流センター 後援:千葉県、千葉市、千葉市教育委員会

※プログラムは原則日本語で行なわれ、中国語の同時通訳はありません。

★お席に限りがございますので必ず事前にお申し込みください。方法は裏面に!★

【中国残留邦人等とは…】

1945年（昭和20年）当時、中国東北地区（旧満州地区）には開拓団など多くの日本人が居住していましたが、同年8月9日、突然のソ連参戦により、人々は居住地を追われ、逃避中や収容所では飢餓や伝染病により死亡者が続出するという悲惨な状況にありました。このような混乱の中、肉親と離別して孤児となり中国の養父母に育てられたり、中国人の妻になるなどしてやむなく中国にとどまった方々を「中国残留邦人」と呼びます。これらの人々はその後も長年にわたり日本への帰国が叶わず、“残留”せざるを得ませんでした。

残留邦人の一部には、樺太や旧ソ連本土に残留されていた方もいることから「中国残留邦人等」と総称します。

◆会場へのアクセス◆ 千葉市男女共同参画センター（千葉市ハーモニープラザ内）

◎電車利用の場合：京成電鉄千原線「千葉寺駅」下車、徒歩6分

◎バス利用の場合：

- ・JR千葉駅東口2番バス停から千葉中央バス（県庁・星久喜台経由）「千葉リハビリセンター行」「誉田駅行」「鎌取駅行」「大宮団地行」等、（県庁・青葉病院経由）「中央博物館行」に乗りし、「ハーモニープラザ」下車（1時間に8～13本）
- ・JR蘇我駅東口2番バス停から千葉中央バス「大学病院行」に乗りし、「ハーモニープラザ」下車（1時間に2～3本）



◆お申し込み方法◆

中国帰国者支援・交流センターまで、お名前とお住まいの都道府県・市区町村名、お電話番号等を添えてFAXかメールでお申し込みください。

FAX : 03(5807)3174 メール : kikaku@sien-center.or.jp

*メール、FAXでのお申し込みがご不便な方は、**電話 : 03 (5807) 3171**へ。

FAX用申込用紙

①お名前 () 都県: 市区 お電話 () -

年齢 () 代 [一般 ・ 学生 ・ 帰国者 ・ その他 ()]

②お名前 () 都県: 市区 お電話 () -

年齢 () 代 [一般 ・ 学生 ・ 帰国者 ・ その他 ()]

③お名前 () 都県: 市区 お電話 () -

年齢 () 代 [一般 ・ 学生 ・ 帰国者 ・ その他 ()]

※所属グループ、団体がある方はお書きください。 []